

乙第9号証

令和4年 第6回定例会(11月29日～12月15日)

第122号  
2023年(令和5年)2月

もくじ

議案の概要 ..... 2  
一般質問 ..... 4

表紙写真募集中 詳しくは8ページへ

# かすがい



道風くん

市議会  
だより



「冬晴れの池のほとり」

落合公園の池で撮りました。乾いた寒い風が吹く池のほとりで娘と公園を散歩していました。  
寒いはずなのに、娘が楽しそうにしていると、こちらも寒さを忘れて笑顔になりました。

撮影者:渡辺裕人

撮影場所:落合公園

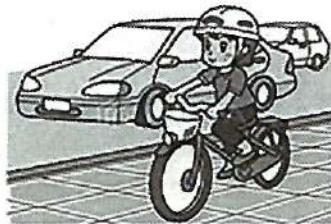
## 4 「自転車安全利用に関する啓発」について

質問者 自由クラブ 奥村 昇次

**【質問】**自転車の交通違反で赤切符を切られる恐れがあると不安になる市民が多い。自転車の交通ルールは、小中学校で教わるが、詳しく理解している大人は少ない。実践的な自転車の交通安全教室を高齢者含め全市民に更に実施することと「自転車が通行可能な歩道」について、一目でわかる標識や道路標示を整備し、自転車、歩行者の安全を守ることの考えを問う。

担当 市民安全課

**【答弁】**自転車に係る交通ルールやマナーについての啓発として、小中学校や地域団体、老人クラブ等を対象とする、自転車を使用した参加体験型の交通安全教室を開催しています。自転車が通行可能な歩道の周知については、自転車を利用する際に、標識や道路標示等により一目でわかるよう整備されていることが効果的であると考えられますので、警察や道路管理者とともに、他市の事例等を参考に調査研究していきます。



## 5 小児・AYA世代がん患者への支援

質問者 公明党 小林 のぶ子

**【質問】**15歳から39歳までのAYA世代と呼ばれる世代のがん患者は、取り巻く環境が千差万別で悩みも多岐に渡り、相談支援が難しい。また、終末期における在宅療養も、支援の狭間の世代のため自費で行わなければならず負担が大きい。①市民病院がん相談支援センターでのAYA世代の相談の現状②小児・AYA世代の在宅療養費助成制度の創設の考えはないかを問う。

担当 医事課・健康増進課

**【答弁】**①市民病院がん相談支援センターでは、治療内容を始め、出産や就学・就労への影響、医療費などの相談がありました。また、在宅療養希望の方には、病状や経済負担を考慮し、訪問診療の紹介などの支援を行っています。②国は次期がん対策推進基本計画を策定する中で、療養環境の実態把握や体制整備の検討を行っています。本市としては、国の動向を踏まえ、先進自治体の事例も参考に、必要な支援方法等の調査研究を行います。



## 6 シビックプライドの醸成について

質問者 公明党 田中 千幸

**【質問】**人口減少は我が国が抱える大きな課題。地元で育った若い層が進学・就職で転出してしまうこともひとつの要因。郷土愛、地元愛を育むことは重要。本市の魅力発信の現状と方向性について問う。そして今後、観光以上移住未満と表現される市外からの関係人口を増加させ、担い手不足解消や協力者を確保するため、シビックプライドの醸成に向けての考えを問う。

担当 企画政策課

**【答弁】**魅力発信については、広報春日井やYoutubeなど多様な媒体を活用した発信や、小中学生向けの社会科副読本「わたしたちのまち春日井」等を作成し、意識醸成に取り組んでいます。シビックプライドの醸成については、今後のまちづくりの観点からも重要であると認識しており、様々な取り組みを通じて、市民の皆様がより一層、自分の住むまちへの愛着や誇りを感じingができるように努めています。



## 7 妊婦のための教室の在り方について

質問者 市民クラブ 伊藤 あんな

**【質問】**①妊婦のための教室は各自治体や産院、企業などさまざまな場所で行われているが、どれも似たような内容となっているが教室開催にあたり法的根拠や厚生労働省からの指導があるのか②当市ではどういう教室を行っているのか③産後うつ病に対する産前での周知について④リアルな子育て情報や経験を伝えることが重要であると考えるが市の考えをそれぞれ問う。

担当 子ども政策課

**【答弁】**①母子保健法に定められています。また、厚生労働省から乳児搖さぶられ症候群の予防を啓発するよう指導があります。②妊娠6か月以降の妊婦とそのパートナーを対象とした「パパママ教室」、妊娠7か月以降の初妊婦とそのパートナーを対象とした「日曜パパママ教室」を開催しています。③母子健康手帳の交付時、前述の各教室や妊婦訪問などの機会をとらえ周知を行っています。④実施方法を含め検討します。



